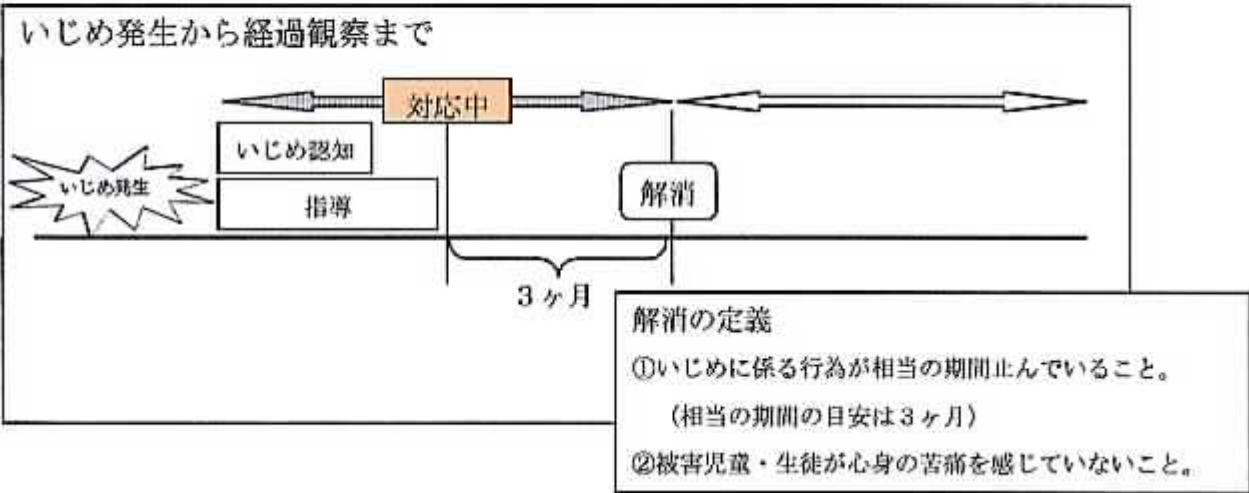


平成27年度～平成29年度 いじめの認知件数

年度	27		28		29	
校種	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
認知件数	12	36	33	39	35	47
対応中 (解消に向けて取組み中)	3	3	0	0	9	8
経過観察中 (解消の後の見届け)	9	33	33	39	26	39



平成29年度 学校におけるいじめの問題に対する日常の取組み

区 分	小学校	中学校
職員会議等を通じて、いじめの問題について教職員間で共通理解を図った。	6	6
いじめの問題に関する校内研修会を実施した。	6	6
道徳や学級活動の時間にいじめにかかわる問題を取り上げ、指導を行った。	6	6
児童・生徒会活動等を通じて、いじめの問題を考えさせたり、児童・生徒同士の人間関係や仲間作りを促進したりした。	5	6
スクールカウンセラー、相談員、養護教諭を積極的に活用して教育相談体制の充実を図った。	6	6
教育相談の実施について、学校以外の相談窓口の周知や広報の徹底を図った。	6	6
学校いじめ防止基本方針をホームページに公表するなど、保護者や地域住民に周知し、理解を得るよう努めた。	6	3
P T Aなど地域の関係団体等とともに、いじめの問題について協議する機会を設けた。	3	3
いじめの問題に対し、警察署や児童相談所など地域の関係機関と連携協力した対応を図った。	2	2
インターネットを通じて行われるいじめの防止及び効果的な対処のための啓発活動を実施した。	5	5
学校いじめ防止基本方針が学校の実情に即して機能しているか点検し、必要に応じて見直しを行った。	5	5
学校いじめ防止基本方針に定めているとおり、いじめ防止等の対策のための組織を招集した。	6	6

1 学校区・学年別 いじめの認知率

資料2

表1-1

学校区	区分	小学校						中学校		
	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
高麗	H27	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	H28	0%	2%	3%	3%	0%	0%	0%	0%	0%
	H29	2%	5%	2%	8%	5%	9%	0%	3%	3%
高麗川	H27	0%	3%	0%	1%	2%	1%	3%	7%	2%
	H28	4%	1%	11%	1%	1%	0%	8%	4%	3%
	H29	3%	3%	1%	2%	1%	1%	8%	3%	0%
高萩	H27	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	4%	2%
	H28	0%	0%	0%	0%	0%	1%	6%	1%	4%
	H29	0%	0%	1%	0%	0%	0%	2%	4%	1%
高根	H27	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%	0%
	H28	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%
	H29	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より

1 学校区・学年別 いじめの認知率

表1-2

学校区	区分	小学校						中学校		
	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
高萩北	H27	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	0%	0%
	H28	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%
	H29	0%	0%	1%	0%	0%	0%	3%	2%	1%
学校区	区分	小学校						中学校		
	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
武蔵台	H27	0%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	3%	0%
	H28	0%	0%	0%	0%	0%	0%	11%	0%	3%
	H29	0%	0%	2%	2%	4%	0%	9%	11%	5%
学校区	区分	小学校						中学校		
	学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生
日高市	H27	0%	1%	0%	0%	1%	1%	3%	3%	1%
	H28	1%	1%	3%	1%	0%	0%	5%	1%	2%
	H29	1%	1%	1%	1%	1%	1%	4%	3%	1%

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より

学校区・学年別 いじめの認知率について

小学校3～5年生に認知率はピークを迎えている。また、中学校1年生で認知率が急激に増加している。中学校では、学年が上がるにつれて認知率が減少していく傾向がある。

小学校3～5年生は自立心が育ち、仲間づくりが始まる時期と言われている。仲間意識が高まる一方で、仲間はずれをつくってしまう。中学校1年生は、部活動等が始まり新しい人間関係が構築される時期である。成長とともに他者を認める力がついてきて、認知率が減少していると考えられる。

どの学年でもいじめは起きるという意識をもって、児童生徒一人一人に適切な指導をする必要がある。

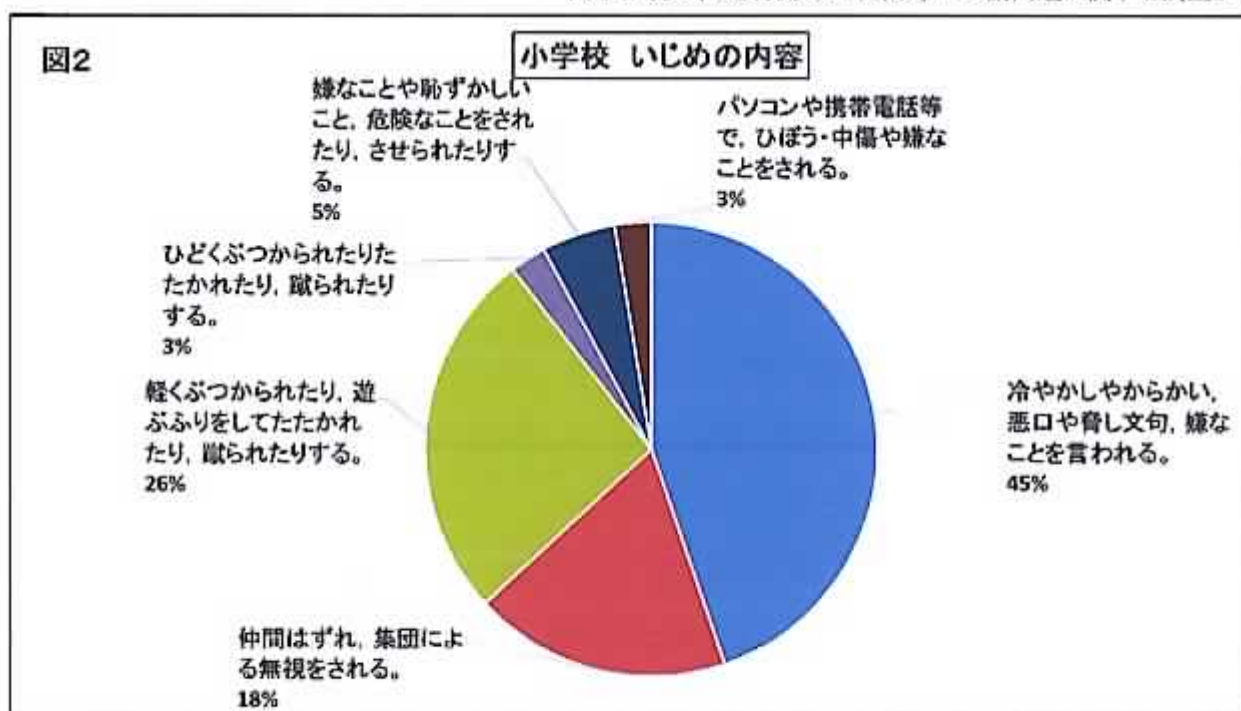
2 学校別「いじめの内容」(小学校)

資料3-1

表2

いじめの内容	高麗小	高麗川小	高萩小	高根小	高萩北小	武蔵台小	計
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	5	8	0	0	0	4	17
仲間はずれ、集団による無視をされる。	1	4	0	0	1	1	7
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	6	3	1	0	0	0	10
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0	1	0	0	0	1
食品をたかられる。	0	0	0	0	0	0	0
食品を隠されたり、奪まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0	0	0	0	0	0	0
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	1	0	1	0	0	0	2
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	1	0	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0
計	13	16	3	0	1	5	38

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より



小学校のいじめの内容について

表2・図2によれば、小学校におけるいじめの内容の半数近くは「冷やかしか等」となっている。次いで「軽くぶつかられた等」が26%を占めている。友だちとのコミュニケーションの方法が分からず、手を出してしまったり、悪口等を言うてしまうことが考えられる。

また、集団を形成していく過程で「仲間はずれ」を作ってしまう傾向がみられる。一度構築された人間関係を再構築することは容易なことではないので、小学校段階からの人間関係づくりが大切になってくる。

その他、「パソコン等」でのいじめについては1件発生している。ネットやスマートフォンの利用が低年齢化していることから、児童に正しい知識やネットモラルを身につけさせるとともに、保護者に対する啓発が必要となる。

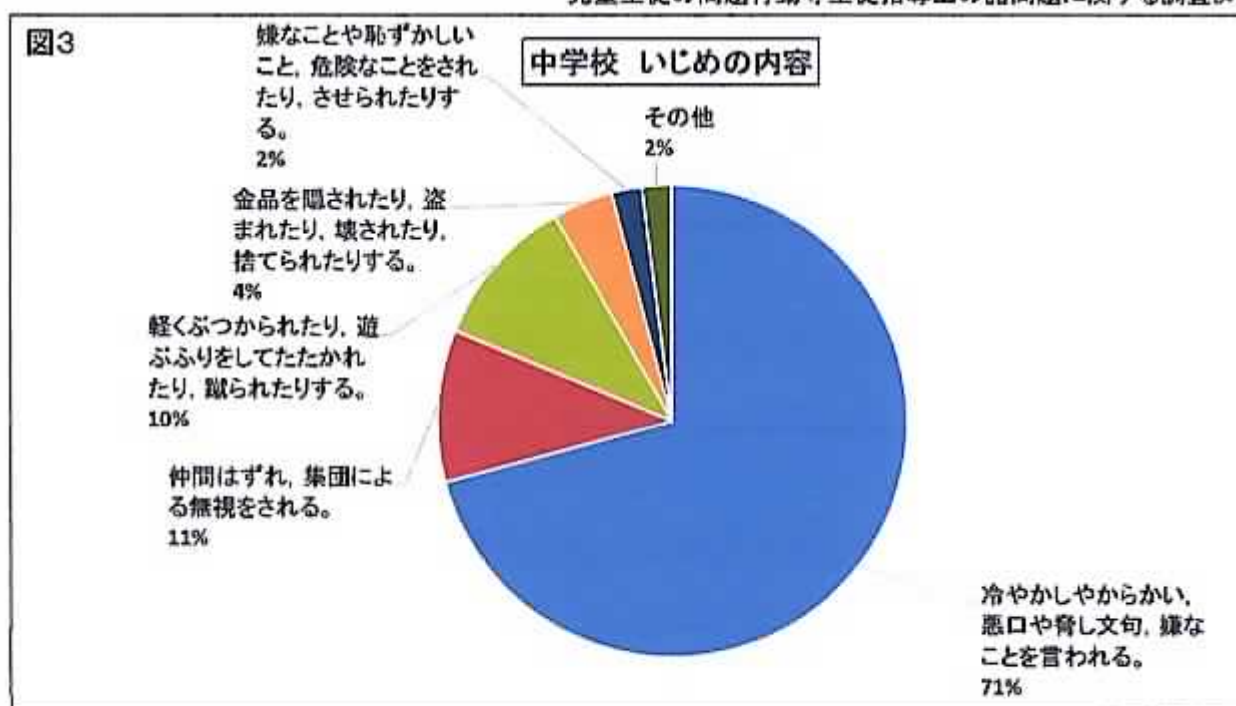
2 学校別「いじめの内容」(中学校)

資料3-2

表3

いじめの内容	高麗中	高麗川中	高萩中	高根中	高萩北中	武蔵台中	計
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。	1	18	6	0	5	4	34
仲間はずれ、集団による無視をされる。	1	1	2	0	1	0	5
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする。	0	0	0	0	1	4	5
ひどくぶつかられたりたたかれたり、蹴られたりする。	0	0	0	0	0	0	0
金品をたかられる。	0	0	0	0	0	0	0
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。	0	0	0	0	0	2	2
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。	0	0	0	0	1	0	1
パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる。	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1	1
計	2	19	8	0	8	11	48

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査より



中学校のいじめの内容について

表3・図3によれば、中学校におけるいじめの内容は「冷やかし等」が大部分である。小学校と同様、コミュニケーションの方法が分からないことに併せて、生活集団に変化がないことが要因として考えられる。また、中学校では「金品を隠される等」のいじめが発生している。被害者本人ではなく、間接的にいじめを行う事例も発生している。

「パソコン等」でのいじめについては、中学校では挙げられなかったが、利用している生徒は多くいるので、生徒にはネット上の情報に対する正しい判断や個人情報保護、情報の拡散について指導するとともに、保護者の見守りが必要となる。

小学校（いじめを予防するための取り組み）

校長の的確な指示とリーダーシップの下、組織的に以下のことに取り組んだ。

1 学校全体での取り組み

- ① 毎朝の登校指導で、児童のわずかな変化（表情の明暗、目線を合わせない、服装の乱れ、あざやけの有無、前日との比較等）を見逃さずに観察している。
- ② 各学期のいじめアンケートに加え、随時アンケート調査を行っている。また、アンケート結果を基に、該当児童から聞き取りを行い、疑いの段階で指導をすることによっていじめを未然に防ぐことができた。
- ③ 担任だけでなく、全教職員で児童の交友関係の変化を見逃さないようにしている。気になることは管理職に報告し、情報の共有を行い、すぐに対応をした。
- ④ 養護教諭は、保健室での教育相談的活動を丁寧に行った。養護教諭は、管理職に報告し、関係する教職員に伝えられて適切に対応することができた。

2 各学級での取り組み

- ① 「いじめゼロ宣言」（いじめをゼロにするための合言葉）を全学級で話し合い、掲示し、できているのか評価をした。
- ② 言われてうれしい言葉、嫌な言葉を考えて、望ましい言葉の使い方を全員で確認した。
- ③ ロング昼休みを設定し、担任を含めて学級全員でレクリエーションを行った。
- ④ 人権感覚プログラムや学級全員が協力して取り組むアクティビティーを実践した。
- ⑤ 帰りの会を利用して、友だちの良いところや良い行動を伝え合う活動を行った。
- ⑥ 助け合ったり、思いやりのある行動を担任がほめ、全員に伝えた。